

秘密結社

声優はVisualに出るな！会議

TCVV

<http://www.tcvv.org/>

TCVV 白書 12

The TCVV White Paper-12

声優を使い捨てているのは誰だ？

12

声優はVisualに出るな!会議

The council of 'Voice actors should not appear in Visual'

声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？

今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんですら CD をあっという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」¹とは良く言ったものである。「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考え。一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。²従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオン最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。³しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。完全に声優が役に負けてしまっていたのである。結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

¹ 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といったら大部分の人がその曲を知っていた。

² 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであろう。）

³ 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

目次

1	議長緊急声明【平野綾に抗議する!】	5
2	第13回TCVV短観 [TCVV短期アニメ観測調査]	6
2.1	TCVV短観概要	6
2.2	調査期間	6
2.3	集計	6
2.4	傾向分析	9
2.5	際立つ状況	9
2.6	気になる動き	10
2.7	定点観測	10
3	専門雑誌における掲載率 Vol.8	11
3.1	目的	11
3.2	解析方法	11
3.3	結果	11
3.4	データ考察	14
4	『声優アワード』Watch Vol.3	15
5	声優システム論 (7)	17
6	TCVVフォーラム	21
6.1	Chairman's free talk-議長放談-	21
6.2	From member's voice	22
7	編集後記	23

1 議長緊急声明【平野綾に抗議する!】

TCVV 議長

今年はライフラインさんこと平野綾のテレビを中心としたメディア出演に関しては各所にて話題となった。

旧来からのファン側から見れば（TV 出演などで）自分達が切り捨てられたような格好になっており、平野の事務所としても一般マスメディアにバンバンと出演させて万人受けするようにしてヲタが逃げてゆくように仕向けているように見える。それもまた一興と思い TCVV としてこの件に関しては特に本誌にてコメントするつもりはなく無く静観の構えのつもりでいた。

よれより寧ろ、『ポスト平野』の方が気になっていた位だ。

その『ポスト平野』に関しては竹達彩奈を見る向きがある。この点については様々な議論があるが『CV における慣性の法則⁴』を考えれば竹達であろうと、なかろうとも平野綾の代役は誰が何とかしてくれるハズで

『大丈夫だ。問題ない。』

ライフラインさん、サヨウナラそう思っていた。

が、そんな中、彼女は twitter 上で『方向転換は事務所側が勝手にやっている』という旨の発言をした。

静観を決めていた TCVV であったが流石にこの発言には腹に据えかねた。

この非常に言い訳みだ発言は、とても看過する訳には行かない。

（演技を重視している）TCVV のような人達からは今までアイドル的な活動をしてきたのに『アイドルじゃない役者です』というのは納得が行かないし、旧来のファンからすれば、「裏切りっておいて何を今さら」という感じである。

いずれにせよ、声優ファンやアニメファンはその迷走振りに困惑、辟易し双方から総スカンを喰らっている状況である。

アイドル性をもった声優の脆弱性を見事に露呈させた。

テレビではノリノリで仕事をしていながら、『勝手に方向転換されて困っている』、『アニメや旧来のファンへ戻りたい。』とか。

そのダブルスタンダード振りはファンへの裏切りや作品軽視にしか見えない。

現状のどっち付かず状態では作品に悪影響を与えることは必至であり、そんな訳分らん心持ちで取り組んでは欲しくはない。このままでは誰も幸せになれない。

この際、TV 中心としたメディアでの活動に転換するのか、または声優を中心とした活動するのかどちらかに決めと欲しいと切に願う。

⁴ 当初、キャラのイメージと CV が合わないと思っていたが、耳が慣れて来ると、最早その CV でのキャライメージが定着してしまうということ

2 第13回 TCVV 短観 [TCVV 短期アニメレ観測調査]

TCVV 情報管理部 調査課 短観担当

2.1 TCVV 短観概要

経済指標を示す「日銀短観（日本銀行短期経済観測調査）」のようにある期間に区切りアニメレの出演数を調査することにより今後の動向を予測する。

なお、データは「しょぼいカレンダー⁵」から TCVV の算出基準⁶により機械的に抽出したものである。

集計方法は新規出演数を 1Q 毎に集計し合算した後、4 で除することで 1Q 当たりの新規出演数の平均値を算出する。この値を「短期的な活性度（単純活性度）」と定義する。

活性度が 1.00 以上ということはクォータ毎に平均して新規 1 本出ていることになり、コンスタンスに新規に出ていると言える。言い換えれば『常に新しい状態』である。

ただし、人間は忘却をする性質があるので『単純活性度』だけでは感覚に合致しないと考える。最近の出演した方がより印象が深い。そこで人間の感覚を取り入れるため過去を割り引いて考えた『感覚活性度』も同時に算出する。

具体的な算出方法は 4Q 前は出演数に 0.25 を、同様に 3Q 前は 0.5、2Q 前は 0.75 を乗ずることで重み付けし人間の感覚により近い活性度を算出する。

また前回より調査数を増やしている。(80 サンプル 92 サンプル)

TCVV 短観は独自集計であるため、単純なべ出演数から集計したものと結果が大きく異なる。しかし、そのため別の視点から状況を分析すること出来ると考える。

2.2 調査期間

西暦 2010 年 10 月～2010 年 12 月

本調査は十分な調査をしていますが予測であり内容を保証するものではありません。

2.3 集計

氏名	2010/1Q	2010/2Q	2010/3Q	2010/4Q	単純活性度	感覚活性度
鹿野優以	0	0	0	0	0.00	0.00
釘宮理恵	2	0	1	2	1.25	0.81
後藤邑子	2	2	1	1	1.50	1.00
平野綾	1	1	2	0	1.00	0.56
浅野真澄	0	2	0	0	0.50	0.25
小清水亜美	2	0	2	4	2.00	1.50
阿澄佳奈	1	3	3	3	2.25	1.75
加藤英美里	2	2	2	1	1.75	1.00

⁵<http://cal.syoboi.jp/>

⁶TVA レギュラ出演のみで単発出演は除く

氏名	2010/1Q	2010/2Q	2010/3Q	2010/4Q	単純活性度	感覚活性度
小林ゆう	3	3	2	3	2.75	1.69
遠藤綾	1	1	1	2	1.25	0.88
沢城みゆき	2	3	3	3	2.75	1.81
戸松遥	1	1	3	3	2.00	1.50
堀江由衣	0	3	3	2	2.00	1.44
伊藤かな恵	0	1	2	4	1.75	1.50
豊崎愛生	1	3	3	3	2.50	1.75
水樹奈々	1	0	1	2	1.00	0.75
中島愛	0	0	0	0	0.00	0.00
高橋美佳子	0	1	1	2	1.00	0.81
中原麻衣	4	1	1	1	1.75	0.81
斉藤千和	2	2	2	1	1.75	1.00
植田佳奈	0	3	0	0	0.75	0.38
森永理科	0	0	0	0	0.00	0.00
白石涼子	1	1	1	2	1.25	0.88
野中藍	0	0	0	2	0.50	0.50
清水愛	1	1	0	0	0.50	0.19
名塚佳織	1	1	2	1	1.25	0.81
喜多村英梨	3	2	1	1	1.75	0.88
井上麻里奈	1	3	2	0	1.50	0.81
茅原実里	2	1	2	1	1.50	0.88
花澤香奈	2	3	3	5	3.25	2.31
早見沙織	0	0	3	5	2.00	1.81
藤田咲	2	2	1	2	1.75	1.06
牧野由依	0	1	0	0	0.25	0.13
寿美菜子	1	2	2	2	1.75	1.19
高垣彩陽	3	2	4	3	3.00	1.94
野川さくら	2	0	1	0	0.75	0.31
宮崎羽衣	0	0	0	0	0.00	0.00
井ノ上奈々	0	0	0	0	0.00	0.00
酒井香奈子	1	0	0	0	0.25	0.06
伊藤静	3	2	3	2	2.50	1.50
生天目仁美	0	1	1	3	1.25	1.06
大原さやか	3	1	1	1	1.50	0.75
田中理恵	0	1	1	3	1.25	1.06
田村ゆかり	2	2	1	2	1.75	1.06
川澄綾子	3	0	1	4	2.00	1.38
能登麻美子	0	1	1	3	1.25	1.06

氏名	2010/1Q	2010/2Q	2010/3Q	2010/4Q	単純活性度	感覚活性度
ゆかな	0	1	2	1	1.00	0.75
桑島法子	1	2	1	2	1.50	1.00
竹達彩奈	1	5	2	5	3.25	2.31
佐藤利奈	1	1	1	2	1.25	0.88
後藤麻衣	2	1	1	0	1.00	0.44
金田朋子	1	0	0	0	0.25	0.06
今井麻美	0	2	1	0	0.75	0.44
矢作紗友里	1	2	2	4	2.25	1.69
新谷良子	1	1	1	2	1.25	0.88
千葉紗子	0	0	0	0	0.00	0.00
藤村歩	2	3	0	4	2.25	1.50
斎藤桃子	0	1	1	0	0.50	0.31
落合祐里香	0	0	0	0	0.00	0.00
あーちすと様	0	0	0	0	0.00	0.00
井口裕香	0	2	3	2	1.75	1.31
新井里美	0	1	3	1	1.25	0.94
水橋かおり	2	1	1	1	1.25	0.69
悠木碧	2	1	1	5	2.25	1.69
佐藤聡美	1	2	1	1	1.25	0.75
広橋涼	0	3	0	0	0.75	0.38
金元寿子	2	0	2	1	1.25	0.75
野水伊織	1	0	1	1	0.75	0.50
桑谷夏子	1	0	1	0	0.50	0.25
こやまきみこ	0	0	2	1	0.75	0.63
渡辺明乃	2	1	1	3	1.75	1.19
早見沙織	0	0	3	5	2.00	1.81
原田ひとみ	2	0	1	1	1.00	0.56
折笠富美子	1	0	0	0	0.25	0.06
豊口めぐみ	1	0	1	0	0.75	0.50
かかずゆみ	0	0	1	0	0.25	0.19
あおきさやか	1	0	0	0	0.25	0.06
松来未祐	1	0	1	1	0.75	0.50
池澤春菜	0	0	0	0	0.00	0.00
望月久代	0	0	0	0	0.00	0.00
井上喜久子	0	1	2	2	1.25	1.00
福圓美里	3	2	1	4	2.50	1.63

氏名	2010/1Q	2010/2Q	2010/3Q	2010/4Q	単純活性度	感覚活性度
三瓶由布子	1	2	1	1	1.25	0.75
小見川千明	1	1	1	2	1.25	0.88
儀武ゆう子	0	1	1	1	0.75	0.56
たかはし智秋	1	2	0	0	0.75	0.31
清水香里	0	0	0	1	0.25	0.25
松岡由貴	1	0	1	0	0.50	0.25
真田アサミ	0	1	0	0	0.25	0.13
水原薫	2	1	0	1	1.00	0.50
坂本真綾	1	2	1	2	1.50	1.00
巽悠衣子	0	1	0	0	0.25	0.13

2.4 傾向分析

前回調査から1クールしか経過していないため上位に然程大きな変動は無い。沢城みゆきは上位を堅持しているものの、今期の台風の目である竹達の勢いに押されて遂に順位を明け渡した。スフィア勢は全員堅調な推移をしており、中でも高垣の活躍が目覚しい。さらに注目すべきは堀江由衣である。各人の順位の上り下がりの激しい中、常に10位前後をほぼ定位置としておりこの高安定は本物だと思われる。一方、前回調査で上位であった日笠陽子は後半に出演数が激減し失速感が大きい。また、上位の常連であった喜多村英梨についても下落傾向にある。

2.5 際立つ状況

2.5.1 竹達彩奈

今回調査にて沢城みゆきを抜いて今年トップとなった。出演数の激増の様子は一時期の中原麻衣や川澄綾子を見ているようだが特筆すべきことはデビュー1年足らずでの勢いであることだ。しかし、声色が単色系なので急激低下したら上昇は厳しくなると予想。10月期の出演数が多かった影響か来期は1本と少ない。

2.5.2 花澤香奈

前回調査に引き続き高いレベルで推移している。さらに来期は4本確定と勢いを維持しており高位者に見られる減衰が見られない。今後について経過観察が必要だ。

2.5.3 スフィア（高垣彩陽、豊崎愛生、戸松遥、寿美菜子）

前回に引き続き高垣彩陽の伸びが異常とも言える。ミュージレの後押しもさることながら演技力、歌唱力ともに備えている点が今後の強みになる。また豊崎人気は依然として堅調である。さらに来年には4人のソロライブが開催されるなど動きが活発化してきた。従来は上手く作品にコッソリと入って来ていたが今年になってゴリ押し感が非

常に目立つようになっている。作品を重視するファン層からは煙たがれる傾向にあるので、プロデュース如何によっては非常に危うい。

2.6 気になる動き

1. 阿澄佳奈

単独では非常に堅調であるが、抱き合わせユニットとも言える『LISP』が足枷になりそう。

2. 喜多村英梨

上位常連だったが今回調査では大幅下落した。しかし、来期出演数は3つあり今回の下落はエアポケットと見られる。

3. 藤村歩

本年、出演多数により存在感を現して来た。しかし、来期の新規が見えず、せっかくの伸びが鈍化しそう。

2.7 定点観測

今回から定点観測銘柄を一部入れ換えた。(あーちすと様、宮崎羽衣 豊崎愛生、戸松遥)

1. 能登麻美子

前回、今回の調査で低迷が続いていたが、来期は4本確定と再び急浮上する気配。『ウィスパーボイス』の需要は健在と思われる。

2. 堀江由衣 (Starchild)

最近出演作品のスタチャ臭が殆ど無くなり常に10位以内と高安定を誇っている。音楽活動においても、ここ暫くはシングルを出しておらず目立ったアイドル活動もしていないが、来期徐々にシングルをリリースすることや来期が1本と今後の活動がやや不透明。

3. 田村ゆかり (Starchild)

前回調査まで変動が多く中位で低迷していたが、今回調査では浮上して来た。しかし、来期も1本と不安定さが残る。現状を支えているのは強力な信者と言っても良い。

4. 野川さくら (Lantis)

相変わらずの低調。来期、以降は全く見えず。また、系るゲ『もろびとこぞりて』の主題歌を唄うなど仕事を選ばなくなってきている雰囲気を感じる。

5. 平野綾 (Lantis)

TV出演による多忙なのか、それとも意図的なものなのか前回予想した通りに前回調査より大幅ダウン。TV番組出演の影響というよりも方向転換が見え隠れする。

6. 豊崎愛生 (Lantis)

従来『アホの子』役が多く、声が単調で低下を予想していたが来期3本と当面は高位を保ちそうである。

7. 戸松遥 (Lantis)

依然として高位で推移しているがゴリ押しキャストはだいが落ち着いた様子。来期は1本だがミューレパワーで当面は高位を維持してゆくだろう。

3 専門雑誌における掲載率 Vol.8

TCVV 情報管理部 調査課 掲載率担当

3.1 目的

本寄稿は TCVV 宣言にある『「声優」と呼ばれる人々は VISUAL、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか?』という、TCVV 本来の目的に戻り TCVV 情報管理部調査課が独自（独断と偏見???) に解析した結果である。

では実際にどのくらいのメディア出現率なのだろうか？

本調査では主にメジャー声優雑誌「声優グランプリ ((株)主婦の友社発行)」を元にグラビアの面積にて評価する。

3.2 解析方法

以下の条件にてページに対するグラビア率を算出し、個人毎&事務所毎にビジュアルに出ている率を算出している。

個人出現率：純カラーグラビアページ率のなかで、個人ごとに相当する占有率。複数人で掲載されている場合には単純に人数で割る。

$$Cp3 = \frac{\text{個人でのグラビアページ数}}{\text{グラビアのみの総ページ数}} \times 100$$

事務所別出現率：純カラーグラビアページ率の中で、所属事務所別の占有率。複数事務所掲載されている場合には事務所数で割る。

$$Cpj = \text{事務所別出現率} = \frac{\text{所属事務所別グラビアのみのページ}}{\text{グラビアのみの総ページ数}} \times 100$$

3.3 結果

2010 年度年間下半期にかけての各号の上位 5 名をピックアップした表を以下に示す。

	7月号	28.62p	8月号	28.85p	9月号	31.25p	10月号	35.14p	11月号	25.49p	12月号	30.96p
1	田村ゆかり	12.69%	福山潤	17.33%	田村ゆかり	22.40%	戸松遥	15.18%	水樹奈々	35.31%	平野綾	16.15%
2	中島愛	10.95%	水樹奈々	15.60%	戸松遥	8.2840%	水樹奈々	7.51%	岸尾大輔	19.62%	茅原実里	12.92%
3	高木俊	6.99%	酒井香奈子	11.87%	日笠陽子	7.99%	寿美菜子	7.42%	金元寿子	7.85%	悠木碧	9.69%
4	代永翼	5.76%	堀江由衣	10.40%	神谷浩史	8.00%	茅原実里	6.24%	入野自由	5.88%	東山奈央	7.27%
5	中村悠一	5.76%	高垣彩陽	9.51%	杉田智和	8.00%	悠木碧	5.69%	羽田野渉	5.88%	竹達彩奈	7.27%

表 1: 2010 年下半期個人出現率上位 5 名

	180.31p			
1	水樹奈々	8.95%	アイムエンタープライズ	31.31%
2	田村ゆかり	5.90%	ミュージックレイン	23.94%
3	戸松遥	5.64%	シグマ・セブン	18.98%
4	福山潤	4.90%	ぷろだくしょんバオバブ	14.166%
5	茅原実里	4.81%	アーツビジョン	11.91%
6	平野綾	3.66%	青二プロダクション	10.50%
7	悠木碧	3.33%	エイベックス・プランニング&デベロップメント	8.67%
8	酒井香奈子	2.95%	俳協	8.24%
9	寿美菜子	2.83%	賢プロダクション	7.21%
10	岸尾大輔	2.77%	スペースクラフト・エンタテインメント	6.60%
11	伊藤かな恵	2.72%	VIMS	6.05%
12	高垣彩陽	2.68%	プロ・フィット	5.95%
13	堀江由衣	2.56%	81 プロデュース	5.91%
14	竹達彩奈	2.31%	尾木プロ	5.32%
15	寺島拓篤	1.78%	スターダスト音楽出版	3.13%
16	中島愛	1.74%	アーリーウイング	3.05%
17	豊崎愛生	1.57%	フリー	2.82%
18	鈴村健一	1.53%	アトミックモンキー	2.72%
19	杉田智和	1.51%	不明	1.50%
20	神谷浩史	1.39%	ジャンクション	1.50%

表 2: 2010 年下半期個人及び事務所別出現率上位 20 名

	2007 年 (391.55p)	2008 年 (384.24p)	2009 年 (412.55p)	2010 年 (383.28p)
1	平野綾 9.17%	平野綾 6.32%	平野綾 7.97%	水樹奈々 8.65%
2	水樹奈々 7.82%	茅原実里 5.72%	水樹奈々 7.27%	田村ゆかり 7.07%
3	田村ゆかり 6.84%	宮野真守 5.39%	神谷浩史 6.04%	茅原実里 5.66%
4	福山潤 2.89%	水樹奈々 5.33%	田村ゆかり 4.46%	平野綾 5.08%
5	新谷良子 2.56%	新谷良子 5.19%	鈴村健一 4.41%	戸松遥 4.97%
6	宮野真守 2.49%	小林ゆう 4.58%	堀江由衣 4.21%	寿美菜子 3.64%
7	吉野裕行 2.45%	堀江由衣 4.15%	戸松遥 4.06%	福山潤 3.58%
8	小林ゆう 2.38%	田村ゆかり 3.38%	宮野真守 3.90%	豊崎愛生 3.47%
9	堀江由衣 2.24%	野中藍 3.14%	小野大輔 3.77%	堀江由衣 3.32%
10	小清水亜美 2.22%	小野大輔 3.00%	茅原実里 3.37%	悠木碧 2.64%
11	茅原実里 2.12%	吉野裕行 2.86%	福山潤 2.04%	高垣彩陽 2.18%
12	野川さくら 1.89%	神谷浩史 2.66%	吉野裕行 1.82%	伊藤かな恵 2.14%
13	白石涼子 1.88%	白石涼子 2.61%	平川大輔 1.29%	竹達彩奈 2.05%
14	中原麻衣 1.79%	高橋直純 2.46%	小林ゆう 1.29%	日笠陽子 1.94%
15	野中藍 1.74%	杉田智和 2.32%	寺島拓篤 1.29%	神谷浩史 1.59%
16	小野大輔 1.66%	谷山紀章 1.76%	能登麻美子 1.27%	入野自由 1.52%
17	諏訪部順一 1.61%	鈴村健一 1.68%	岸尾だいすけ 1.26%	酒井香奈子 1.39%
18	森川智之 1.49%	名塚佳織 1.67%	岡本信彦 1.22%	鈴村健一 1.37%
19	神田朱未 1.49%	平川大輔 1.63%	伊藤静 1.20%	岸尾大輔 1.31%
20	鈴村健一 1.40%	津田健次郎 1.52%	鳥海浩輔 1.24%	花澤香菜 1.31%

表 3: 2007-10 年年間個人出現率上位 20 名

	2007年 (391.55p)		2008年 (384.24p)	
1	シグマセブン	11.46%	青ニプロダクション	9.83%
2	アイムエンタープライズ	9.65%	シグマセブン	9.65%
3	スペースクラフト・エンタテインメント	9.12%	アイムエンタープライズ	7.06%
4	アーツビジョン	8.92%	スペースクラフト・エンタテインメント	6.31%
5	青ニプロダクション	8.40%	エイベックス・プランニング&デベロップメント	5.72%
6	ぶろだくしょんバオバブ	6.53%	劇団ひまわり	5.46%
7	ラムズ	5.20%	ビーボ	5.19%
8	81 プロデュース	4.78%	ホーリーピーク	4.58%
9	俳協	4.71%	VIMS	4.15%
10	フリー	2.74%	マウスプロモーション	3.34%
11	ビーボ	2.55%	アトミックモンキー	3.11%
12	劇団ひまわり	2.48%	アーツビジョン	2.93%
13	ホーリーピーク	2.42%	俳協	2.88%
14	賢プロダクション	2.16%	フリー	2.82%
15	アトミックモンキー	1.86%	賢プロダクション	2.66%
16	マウスプロモーション	1.86%	81 プロデュース	2.47%
17	エイベックス・プランニング&デベロップメント	1.85%	ダウンゴアーティストプロダクション	2.20%
18	八重垣事務所	1.53%	ラムズ	1.98%
19	ボイス&ハート	1.34%	ぶろだくしょんバオバブ	1.82%
20	ドラマチック・デパートメント	1.33%	大沢事務所	1.80%

表 4: 2007-08 年年間事務所別出現率上位 20 社

	2009年 (412.55p)		2010年 (383.28p)	
1	シグマ・セブン	10.93%	ミュージックレイン	14.05%
2	アーツビジョン	10.58%	アイムエンタープライズ	12.95%
3	青ニプロダクション	9.98%	シグマ・セブン	10.29%
4	スペースクラフト・エンタテインメント	7.96%	青ニプロダクション	6.35%
5	ミュージックレイン	6.76%	アーツビジョン	6.27%
6	アイムエンタープライズ	5.69%	ぶろだくしょんバオバブ	6.03%
7	VIMS	4.79%	エイベックス・プランニング&デベロップメント	5.681%
8	マウスプロモーション	9.83%	スペースクラフト・エンタテインメント	5.105%
9	エイベックス・プランニング&デベロップメント	4.10%	VIMS	4.33%
10	劇団ひまわり	3.9%	プロ・フィット	3.50%
11	賢プロダクション	3.61%	81 プロデュース	3.35%
12	ぶろだくしょんバオバブ	2.94%	賢プロダクション	2.55%
13	俳協	2.72%	俳協	2.43%
14	大沢事務所	2.66%	大沢事務所	2.34%
15	メディアフォース	1.82%	フリー	1.66%
16	フリー	1.73%	ジャンクション	1.53%
17	カレイドスコープ	1.44%	尾木プロ	1.4%
18	不明	1.4%	アトミックモンキー	1.14%
19	プロ・フィット	1.37%	スーパーエキセントリックシアター	0.98%
20	ホーリーピーク	1.29%	不明	0.92%

表 5: 2009-10 年年間事務所別出現率上位 20 社

3.4 データ考察

各月、下半期とも前回 TCVV 白書 Vol.11 から大きな変動も無くほぼいつも通りの結果に収まっている。特に今年は1月号で平野綾が月刊占有率で1位を獲得して12月号で再び1位を獲得している。まさしく平野綾で始まり、平野綾で終わったと言える1年であった。

それでは、年間結果を見てみよう。上位陣に大きな変動は無く、過去4年の結果から田村ゆかり、水樹奈々、平野綾はもはや殿堂入りといえる。今年三十路を迎えた水樹奈々はついに一般写真週刊誌にてグラビアデビューするに至った。

それ以外で目立つのはスフィアの4人組が全員入閣している。昨年から引き続き猛烈なプッシュの賜物だろう。その結果、事務所別でもミュージックレインが最大手アイムを抑えて堂々の第1位になっている。また、今年赤丸急上昇したのが竹達彩奈。「けいおん!」にて火がついて2010年9月までに出演作品が8本に対して10月期だけで5本ものレギュラー出演がある。この傾向が良いか悪いか今後の要注意である。

参考文献

(株)主婦の友社発行 月刊声優グランプリ 2007年1月号～2010年12月号

4 『声優アワード』 Watch Vol.3

TCVV 情報管理部 調査課 声優アワード担当

1. 第5回声優アワード受賞予想

既報になるが第5回声優アワードにおいて(諸悪の根源である)一般投票の受付が実施中である。ところで人間の記憶は結構いい加減なものである。とある声優が前半に活躍しても年の後半に殆ど出演していなければ頭の中に残っていないなんて良くあることだろう。声優アワードはそのいい加減な記憶に頼る一般投票でノミネート者が決定する。

前回の『声優アワード』 Watch にて受賞者の予想可能性⁷について論じた訳だが、その内容を元に第5回の受賞者の予想をしたい。

基礎データとしては忘却概念が入っている本誌掲載の第13回TCVV短観の感覚活性度を使用する。

『印象的』と判断するには少なくとも荷重平均が1.0を越えている必要があるだろう。1.0未満は原則無視する。

また、処理の仕方は主演数が多い順などあくまでも機械的な処理のみで行ない個人的な思惑は入れないことを原理原則基礎基本とする。

2. データから見た全体的傾向

『声優アワード』 Watch Vol.2 の中間予想では新人賞は『高垣彩陽、日笠陽子、竹達彩奈、寿美奈子』と予想した。

日笠については第12回の時点では上位だったが後半失速した。逆に中間時点において20位以内に入っていなかった悠木碧が後半の追い上げで上位に食い込んできた。また、寿は後半追い上げて来たが一歩及ばずと言ったところである。

助演女優賞については前半、存在感を主張した新井里美が有力候補と思われていたが休養の関係で出演数が減っておりこれも及ばずと言った所と見ている。

なお、『無冠の帝王』喜多村英里は前半好調で今年は入賞するかと思われていたが後半の失速により今回も駄目であろう。

3. 予想結果

第13回TCVV短観のデータを元に分析した結果、第5回受賞者を下記のように予想する。男性も予想したかったのだが基礎データとなるTCVV短観に男性データが無いため、今回は女性だけとした。

各賞	第1優先	第2優先	(第3優先)	(第4優先)
新人女優賞	竹達彩奈	早見沙織	悠木碧	藤村歩
主演女優賞	花澤香奈	豊崎愛生	小林ゆう	高垣彩陽
助演女優賞	高垣彩陽	阿澄佳奈	早見沙織	伊藤静

⁷声優アワード受賞者がTCVV短観の感覚活性度の上位者と極めて良く一致することからTCVV短観から受賞者が予想出来るのではないかという考察

まず、新人賞候補者については『竹達、早見、悠木、藤村』を挙げ、さらに絞って『竹達、早見、悠木』とした。

助演女優賞や主演出演数などは上位 20 位の中から誰が来ても出演数を加味しての順番を決定した。高垣については新人賞候補として有力候補なのだがデータから消去法で助演女優賞 1 位とした。

(年間感覚活性度が 1 位、竹達彩奈。2 位 花澤香奈 3 位 高垣彩陽)

各賞とも例年 2 名まで選ばれるので第 1 および第 2 優先が TCVV としての入賞予想とする。なお、(不本意ながら) 富山敬賞は平野綾の可能性が高い。何せ話題性だけは今年一番なのだから。

4. 声優アワードこの先の問題

本稿にてこれまで声優アワードについて数々の問題を指摘して来たが更に別の問題が発生しそうである。

回を重ね 5 回も開催していると自然と受賞歴のある人間が多くなって来る。実際、今回の TCVV 短観上位者の上位 20 名のうち、約半数は既に受賞歴がある。飽和状態になっているのは紛れも無い事実である。

新人賞は基本 1 回しか受賞資格が無いので、今後受賞者なしという年もあるかと思う。

主演、助演に関しては余程酷い状況にならない限り受賞者無しということにはならないとは思いますが最悪、また同じ面子になってしまう虞れがある。

5 声優システム論 (7)

声優ファンの行動を考える。-誰が使い捨てをしているのか?-

TCVV 議長

声優システム論とは

昨今の声優（現代声優）はアニメや洋画に声を当てるだけの存在ではなく、社会や経済にも影響を与える存在になった。

その動きは古典的な声優論では説明出来無い。そこで現代声優の振舞いを複雑系として捉えることを考え、この系を『声優システム』と名付けた。⁸

本論は『声優システム』を様々な角度から考察するものである。

1. 恒例のまくら

大物アイドル化声優を使っていれば売れる時代ではなくなったことを知ったスターチャイルド（以下、スタチャ）さんですが、最近は色物路線爆走中でヨスガノソラをまさかのエロアニメ化。正直、ゑろげ原作をそのまま表現したのは凄いと思った。どう見ても R-18 です。本当に (ry 堅物と言われたスタチャがここまでストレートに表現するなんて予想だにできなかった。スタチャの堅いイメージがここ1年で完全に無くなってしまったが、世の中では大変好印象なようである。

放送前、某巨大掲示板での下馬評は実妹設定が義妹設定に変更されるという噂が流れたり、ED が良く分らんアイドルユニットに決定したりとの情報により原作ファンを中心として『お通夜状態』だった。しかし、放送が始まると作画のクオリティや演出の高さで話題となり Amazon さんの予約ランキングがウナギ登りになるという現象が発生。作戦としては大成功を納めた形だ。

さらに来期、『お兄ちゃんのことなんて...』と相変わらず色物路線まっしぐらで暴走を加速中である。

確実におかしな方向に動いているかと思われるが暴走都知事やアグネスの目をどう気にするかちょっとは興味ある今日この頃である。

さて、今回は声優システムを構成する第3番目の要素であるファンについて考えてみたい。これまで声優システム論では声優、業界について論じて来たが3本柱のなかで最も身近なファンについて論じてみたい。

2. 声優システムの構成要素としてのファン

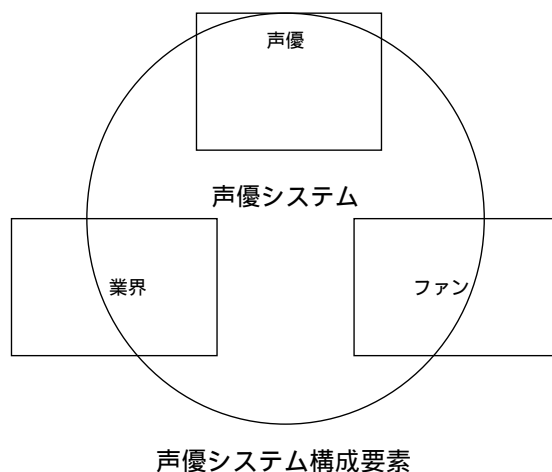
TCVV は以前から取りまく環境、即ち声優システムを構成する要素として図中の3つを上げてきた。

この図中のファンとは声優ファンだけではなくアニメファン、ゑろげファンなども含まれる。

声優システムは声優ファンだけでは成りたつような単純なシステムではないからだ。

⁸システムたる典型的な例は声優のためにアニメが作られるようになったこと。主従で言えば、従だった声優が主になったという点から見ても『システム』要件を満している。

その『ファン』については種類は2つに大別出来ると思う。
一つは作品重視な層と声優自身に興味がある層である。⁹



声優ファンはプラス方向に効果を出す作品重視なファンは作品の出来不出来を判断してマイナス効果を出したりする。¹⁰

ただ、実際にはこんな単純な二極対立構造ではなく声優ファンや作品ファン同士の内部抗争など相互に影響を与えるもっと複雑系的な振舞いをしている。

3. アイドル化声優ファンにとっての作品

劇場版キディグレードを観に行った時の事である。私はキディグレードのファンであったため、急いで仕事を終えて新宿まで出かけて行った。遅い時間帯にもかかわらず出演したキャストが舞台挨拶に出るというイベントが付いていた。当方は舞台挨拶も作品も楽しみにして開演まで待っていた。開演して舞台挨拶が終わると、最前列にいた何名かは映画を観ずに出て行ってしまった。これには軽く衝撃を受けた。「お前えら何しに来たんだ」と。まあ、何しに来たのかは明白なのだが作品やそれを製作したスタッフに失礼ではないかと腹が立った。

さらに別の事例を挙げよう。これは知人からの外聞ではあるが『みつどもえ』のイベントでは作品そっちのけで騒いでばかりで一部で非常にマナーが悪かった人がいたとの報告がある。サイリュームを投げたりと何をメインと思っているのだろうか。スフィアファンの行儀の悪さは周知の事実であるが純粋に作品を見に来た人間にとって甚だ迷惑である。声優がアイドル化して久しいが各種イベントにて過激化する声優ファン。端的に言えば作品軽視ではないか。

いずれの例を挙げても声優ファンにとって作品は『メディア(媒体)』に過ぎないということである。TCVVを始めとしたアニメファン、彙ろげファンは作品が主で声優が従であると考えているが、声優ファンは逆転してあくまでも声優が主で作品が従なのだろう。

ただ『騒ぎたいだけ』、『見たいだけ』とアイドル性のある人を単に求めているだけとしか見えない。

声優がアイドル化した弊害の最たる例と言って良い。

⁹TCVV はどれに当てはまるのかと言うと非常に微妙である。基本的には作品重視ではあるのだが、今では声優動向を研究、分析したりして声優ファンと呼べない。ただ、このような勢力は非常に小さくシステム上の影響度は小さく(不本意ながら)無視出来る。

¹⁰野川さくらが出ているからストライクウィッチーズシリーズのBDを買わないとか。(それは私だけですか、そうですか)

4. ファンの経済的貢献度

昨今の経済的不況によってDVD/BDの売れ行きが芳しくなくなって久しい。声優ファンは作品の出来不出来に関係なく人に付いて回るので一定数の貢献度があるのではないかと考えている。逆を言うと作品が売れても殆ど貢献しないのではないかと思われる。

2010年12月22日に経産省が日本のアニメやゲーム、ファッションなど文化産業を軸とした『クールジャパン』戦略を発表した。

この計画実行については些か懐疑的ではある。作品に対する思い入れのある人を増さない限り計画の到達は厳しいだろう。

5. 使い捨てをして来たのは誰か？

これまでTCVVは業界(事務所、出版社、製作会社)などが声優をアイドル化して、更には使い捨てをして来たと言主張して来た。

確かに声優をアイドル化(アイドル化声優)したのは業界である。しかし、本来は作品と不可分であるはずの声優を分離して考えたのはファン側はでないか？

そして過熱した結果、ちょっとでも可愛いアイドル化声優が出ると追っかける。その追っかけ方も前述したようにイベントで騒いだりする程度。応援とは程遠い。そして、新たな可愛いアイドル化声優が来たら、そちらにも乗り、暫くしたら完全に乗り換えてしまう。こうして見てゆくと、実は使い捨てているのは我々ファン側なのかも知れない。使い捨ての片棒を担いていると言っても良くファン側にも責任の一端はあるのではないかと考える。残念ながら声優ブームにより、このような『お客さん』的なファンが大増殖してしまっていることだ。

声優を育てるという気持ちや作品を大切に思うなんて気持は皆無と言って良いだろう。

厳しい言い方になるがアイドル化声優を『アニメに出ている可愛い人』というレベルの認識しか無いと思われる。

また、当の声優自身についても踊らされているウチは華やかだろうけど、旬の去った後には何が残るだろう？それこそ一般のアイドルと同じ道を辿ってしまうだろう。

当方、AKB48に興味は全く無いが引退後メンバーの末路はどうなるのか。アイドル化声優も下手をしたら同じ運命を辿ってしまうだろう。

6. 作品や声優を育てるという文化の醸成

そもそも、声優はアイドルではない。アイドルと決定的に違うのは役者であること。そんなの当たり前のことである。アイドルは所詮『偶像』であるが声優は違う。

役者として育て、願わくば多くの作品で楽しませてもらいたい。何よりも役者の質によって作品を壊すことだけはして欲しくない。

平野綾ファン(通称、ライフライナーさん)のファンが絶望したのは彼女を他のアイドルと同一視したからではないか？同一視するから絶望感も大きい。作品の演者と考えれば絶望感などない。

一番の責任はブームを仕掛けた側にあると今でも思う。

ファンを『お客様』に仕立てたのは言うまでもなく業界であるが、それに気付かず^{ぬるまゆ}にただ微温湯につかっていて良いのか。

TCVV設立初期の頃、これを声優自身の改革で求めて来た。役者に業界を引っぱってもらって改革を求めていたが、実際問題として様々な利権問題や人間関係など構造上の問題で声優自身には改

革など全く望めない。増しては提灯記事しか書かない出版社などに自浄能力なんて無いのは明白だ。となると、ここは我々声優 | アニメ ファンたる我々が動かないと駄目ではないのか？
声優を育てることが延いては作品を育て守ることの近道であると考え。

業界がお膳立てした魅力的なアイドル化声優による『サービス』は短期的に見れば非常に気持の良く素晴らしいものに見える。だが、しかしアイドル化声優の追っ掛けでは文化の醸成なんてあったもんじゃない。所謂、『一般アイドル』が旬を過ぎたらどうなるか歴史が証明しているではないか。

そろそろファンが声優を育てるという方向を考え始めても良いと思う。多少上から目線かも知れないが『 はワシが育てた』という位の気概や気構えがあっても良いと考える。

7. 田村ゆかりという存在は壮大な社会実験である

正直、田村ゆかりは声優システム論の構築を難しくしている厄介な存在である。

年齢^{よわい}34 といえばアイドルとしては高齢である。ちょっと前では考えられない。

これまで幾度となく解明を試みたが巧く説明が出来なかったが今回の論考をしていて一定の結論が出た。

本誌の『TCVV 短観』と『専門雑誌における掲載率』を見比べて頂くと分かるのだが田村ゆかりは雑誌メディアへの露出度は極めて高い。ここ最近の出演数は低迷してるが極端に落ちることもない。

彼女は『良く訓練された王国臣民』と評される狂信的とも言えるファンによって熱狂的に支えられ、また育てられある水準を保っている雰囲気がある。

うまくすると王国臣民はアイドル化声優を声優として育成する文化を醸成するかも知れない。

このことは、まだ誰も辿り着いていないアイドル化声優を超えた存在即ち、『超アイドル化声優』の境地へと進ませる壮大な社会実験と考えれば非常にしっくりと来る。¹¹

8. 今回のまとめ。

- 今や業界は声優を育てるという雰囲気が無い。
- ファンの『お客様化』により作品や声優を育てるという文化の醸成は薄れる。
- ファンは使い捨ての片棒を担いでいる。
- 王国臣民は本物のファンになれる (かも)。

¹¹逆に平野綾は本来育ててもらえるハズのファンを混迷に陥れ、その結果離反させたことにより超アイドル化声優に失敗したと見ている。

6 TCVV フォーラム

TCVV 会員や読者の声を放談という形でお届けします。

TCVV 事務局

本誌に関する御意見、御感想をお待ちしています。
info@tcvv.org もしくは公式ページの意見箱までお寄せ下さい。

6.1 Chairman's free talk-議長放談-

I. 阿澄佳奈、片岡あずさ、原紗友里による新声優ユニット『LISP』。

そのキャッチコピー『キミとセツゾク』。

奇しくも IETF(インターネット技術の標準化を検討する会議)で議論されている新しいプロトコルに LISP(Location ID Separation Protocol) というものがあります。

新プロトコル LISP ですがその特性からキャッチコピーを『キミとセツゾク』にしても良いかと。ですので(声優ユニットの方の)LISP の由来を(新プロトコルの方の)LISP の意味も含んでいるとすれば Geek な方面も巻き込めるかも知れませんがどうですかねえ。

II. web ラジオペースメーカー

Linux-HA¹² プロジェクトがその広報として「web ラジオペースメーカー」を始めました。

そのパーソナリティとして丹下桜・田中理恵・新谷良子・橋本まいが出演しており、台湾の M\$ほどではありませんが、いよいよ Linux はじまったという感じです。

個人的にはセキュア OS の TOMOYO Linux¹³上で動かしてもらって CV に岩男潤子を追加してもらえれば完璧だと思っています。

III. また、変更ですか。そうですか。

曲芸 Circus は新作『T.P. さくら』にて既存キャラの CV を変更し、旬な人をふんだんに採用しているようです。アニメを始め何回キャラの CV を入れ替えれば気が済むんでしょうか？

メーカー側のこう言う姿勢がキャスト変更の是認となってしまうのです。それより何より D.C. は『おわコン』だと思ふのですが...

IV. 『そんな少人数で大丈夫か？』

気が付いたら井ノ上奈々もラムズを退所していました。これでクローバの 3/4 が退所したことになります。最盛期に比べて所属者が激減しました。この先、ラムズはどこ行ってしまうのでしょうか。鹿志村社長のことなので『大丈夫だ。問題ない』と言うでしょうけど。そう言う意味で当面は目が離せません。

¹²High-Availability(高可用性:簡単に言えば全体として倒れにくいシステム)

¹³<http://tomoyo.sourceforge.jp/> また名前の由来は <http://i-love.sakura.ne.jp/tomoyo/> を参照。

6.2 From member's voice

情報管理部調査課主任 北沢紘一

グラビアページと Twitter

Twitter 便利です。「なう」なんて言葉も今年の流行語に入りました。そんな私も仕事中に呟いております hi

さて声優雑誌に掲載されているグラビアページから流行を探ろうという「専門雑誌における掲載率」。

内容云々に関しては本編に書かれていますので省略して、2010 年間ランキングに入っている 20 名の中で何人が Twitter で呟いているのか調べてみました。

結果、田村ゆかり、平野綾、日笠陽子、酒井香奈子の 4 人だけという意外な結果になってしまいました。

もっとも我々TCVVの Twitter アカウントにてフォローしている声優さんを元にしてはいますので、実はまだフォローしていない方がいるかと思えます。

さて、これでは面白く無いので blog を開設している声優さんはどのくらいいるか調べてみました。なんという事でしょう。神谷浩史だけ見つける事ができませんでした。

まあ花澤香奈はラジオ番組との連動なので正確にいうと違うかもしれませんが、一般的に blog だと認識されている様なので今回 blog と判定しました。

ここからは完全に私の憶測なのですが、blog はファンサービスの一貫として所属事務所からある意味無理やり書かされているかもしれません。

逆に Twitter の場合本当に個人的な興味から時々感じた事を呟いている様に思えます。先日の平野綾の Twitter 発言が記憶に新しいと思います。本心かどうかこればかりは本人にしか解りませんが ...

ナウなヤングにバカウケとまではいかないですが、若者に受け入れられていると思っていた Twitter は声優業界ではそうでも無いみたいです。

我々TCVVにて把握している内ではベテラン勢からデビュー数年勢まで割と幅広くアカウントを持っている様です。

声優さん同士でツッコミしあっているのを見ている中々面白い、またフォロー関係から某匿名掲示板等で噂されている様な不仲関係とか見えてきそうで今後は楽しみです。

我々TCVVでは Twitter アカウントを持っている女性声優を中心に引き続きフォローし、監視していきたいと思えます。

7 編集後記

本誌をご高覧頂きありがとうございます。

今回は時間が無いのに内容を詰め込み過ぎた感がありましたが何とか間に合いました。

声優島から追放されて早1年。最早戻れる気配はなく寧ろ、ここが定位置になりそうな勢いです。どうして、こうなった。orz

さて、今回の声優システム論では一番身近なファンについて論じました。読む方によっては不快な内容かと思えます。

まあ、従来から本誌を快く思っていない人も多数かと思えます。本誌についてWEB上での感想や評価を見ると声優ブームに中立的もしくは批判的な人は軒並高評価。特定の人を応援している人から見れば低評価な傾向にあるようです。本を出すからには批評はされる。高評価もあれば低評価もある。これは当然であり真摯に受け止めなければなりません。

またTCVVは声優ブームに批判的で非難ばかりしているの御叱りを受けますが『大政翼賛会』ならぬ『大声優翼賛界』な状態でこんな事言うのはTCVVぐらいたと思います。そんなサークルが1つや2つくらいあっても良いじゃないですか。

ファンについての論考が一番身近な話で且つ声優システム基本構成3要素であるにも係わらず、これまで全く取り上げていませんでした。これではバランスを欠き不公平であります。身の危険(大袈裟)もありましたが敢えて今回この話題を取り上げました。本誌を始め、声優島周辺に来る方々について書く訳ですから、それなりの覚悟を持って書きました。

TCVV宣言にて『諫言役』と宣言している訳ですから言い難いことを敢えて書きます。内容的にはかつてWEB上で連載していたコラム『がんばれみやむー』で書いてきたことを大幅に加筆しただけですが、我々が声優をアイドルとして使い捨てをしていた事を自認し反省しなければならないと思います。

今回は野心的な試みで声優アワードの予想などしてみました。これまでの研究成果を提案したわけですが、専門家が雁首揃えて出した選考結果と単純に統計だけで算出した予想がどれほど一致するか。これは声優アワードに対する挑戦です。結果は3月になれば分かるかと思えます。暫しお待ち頂ければ良いかと思えます。比較結果の検討や反省点を次回の白書にて報告したく思えます。

そして、相変わらず一致しない声優雑誌への露出度と短観の順位。上位者がほぼ真逆の関係にあって面白い位に一致しないので非常に興味深いものを感じとれると思えます。

今年は平野綾に関しては色々ありました。良くも悪くも彼女の話題で持ち切りでした。

話題性と言えば破竹の勢いの竹達彩奈。これだけ出演数が多いと今後のリバウンドが本人の体型同様に心配です。

あと、LISPを見ていると非常に痛いと思います。色物とまで行かないまでも、それに近いものを感じがします。鳴かず飛ばすの人を人気声優とくっつけてちょっと変ったコンセプトで抱き合わせて不良在庫処分しているとしか見えない。さらにLISPの抱き合わせに付き合わされている作品もチラホラ出ており作品への悪影響も懸念されます。

経済活動の低迷で景気の先行きが不透明となって一旦緩みかけた財布の紐も再びキツくなっています。そのため消費が落ち込んでおり、LISPに見られるように業界は手を替え品を替えあの手、この手で攻めて来ます。お客様(消費者)としている分には結構な事ですが声優の使い捨てを助長している気がします。

何だかまとまりの無い、後書きとなってしまうかもしれませんが、次回もよろしくお願いします。

2010年12月26日 TCVV 議長 萱沼真一

TCVV 白書 12

発行 「声優は Visual に出るな!会議」情報管理部

組版 L^AT_EX2e (Linux)

発行日

2010 年 12 月 29 日 (初版)

連絡先

「声優は Visual に出るな!会議」

代表者 萱沼真一

URI <http://www.tcvv.org/>

E-mail info@tcvv.org

Twitter <http://twitter.com/tcvv>

Copyright (C) 2010 The council of ‘Voice actors should not appear in Visual’

本文に一切変更を加えず、この著作権表示を残す限り、この文章全体のいかなる媒体における複製および配布も許可する。